

第7回 仁淀川シンポジウム **レポート**

仁淀ブルーを後世に ～自分らあができること

日時：平成30年2月3日(土) 13:00～16:00

会場：仁淀川町立中央公民館

主催：仁淀川清流保全推進協議会・高知県

共催：仁淀川流域交流会議

協賛：アサヒビール株式会社

プログラム

1 開会あいさつ

仁淀川清流保全推進協議会 井上 光夫 副会長

仁淀川流域交流会議 大石 弘秋 会長

2 第1部 活動紹介

「伝えたい仁淀川 土居川の魅力」 仁淀川町立池川小学校5年生

「今年度取り組んだ内容について」 仁淀川清流保全推進協議会 事務局

3 第2部 ワークショップ

テーマ：「こどもたちを川へ呼び戻す」「美しい景観を保全する」

4 ワークショップまとめ

「伝えたい仁淀川 土居川の魅力」

仁淀川町立池川小学校5年生

これから、ぼく達池川小学校5年生が、仁淀川の支流である土居川の魅力について、発表します。伝えるポイントは3つあります。

まず、1つ目は、1学期の体験学習を通して、ぼく達が学んだことをお伝えします。

2つ目は、2学期に行った学習発表会に向けて、その学びを「アリス in 土居川ランド」という創作劇にし、伝えたことをDVDにしていますので、少しご覧いただきたいと思います。

3つ目は、このすばらしい土居川を、県内・県外・世界中の方々に知ってもらいたいという思いで、英語でのスピーチを聴いていただきたいと思います。

それでは、まず、1学期の体験学習を通して、ぼく達が学んだことをお伝えします。

ぼく達の通う池川小学校は、仁淀川の支流にある土居川が目の前を流れています。毎年、春の遠足には、1年生を迎える会として土居川の河原に行き、河原での石積みや川岸からの水切り、水生昆虫さがしなど、川遊びに親しんできました。

去年の5月9日に、石川先生と一緒に宮崎の河原に、水生生物を採りに行きました。直径10cmの石を返すと1cm位の水生昆虫がいました。すぐにバケツに入れて観察しました。名前も知らない生き物がたくさんいました。その中でも一番大きいのはヘビトンボの幼虫でした。黒くてブニュツとしてムカデみたいでした。石川先生から毒はありませんと聞いてホッとしました。成虫になるとブルーの羽で、すごくきれいだなと思いました。

水生昆虫のすみかは、砂の中や石の裏等、様々です。中でもトビケラのように、自分で糸を吐き、小石をくっつけて自分で巣を造る水生昆虫もいます。図鑑で調べてみると、住処のタイプは2つあり、固定型や携帯型があることが分かりました。人間の世界に例えるなら、家とキャンピングカーのような事かなあと想像し、おもしろくなりました。

採ってきた水生昆虫を学校に持ち帰り、理科室で顕微鏡を使って観察しながら、名前やすみか、どんな役割を持っているのかなど教えてもらいました。顕微鏡をのぞいてみると、触覚や足の動きや体の中まで見ることができ、感動しました。僕たちが見つけた水生昆虫は、カワゲラ、トビケラ、カゲロウ、カワヨシノボリ、ヒラタドロムシなどです。きれいな川にしか住めない虫たちが数多くいることや様々な種類の生き物がいることが分かりました。川の生き物は、その種類が多いほど良いそうです。なぜかという、川の汚れを餌にしている虫が魚の餌になったり、鳥のえさになったり、成虫になって飛んでいくことで川の汚れを取り去ってくれるからです。

だから、土居川は美しいのです。川の虫が川の汚れを食べて糞をし、それをまた別の虫が食べてだんだん大きく成虫となり、川から出ていくことで、川の汚れを出してくれていることが分かりました。水生昆虫は、この川をきれいにしてくれているのです。

ぼく達は、こうして学んだことを学校新聞にし、地域の方々にも知ってもらおうと記事にしました。夏休みには、宮崎キャンプ場に行きインタビューしたことも記事にしました。その1つを紹介します。

ぼく達は、アユの放流体験から学んだことを伝えます。

5月25日にアユの稚魚を放流に行きました。放流した稚魚は5,000匹位いて、バケツリレーで川に流しました。5cmの稚魚を川に放流するとき、勢いよく元気に飛びはねて入っていました。大きく育ってくれるといいなと思いました。1~2年後には成長していると思うので、食べるときは、最高においしい食べ方、炭火焼きで食べたいと思いました。また、釣るときは大きく成長したアユを中心に釣る方が、環境のためがいいと思います。



釣りをしている人を良く見ると長靴のようなものをはいていました。川には、釣り針やとがった物が落ちていて危険がいっぱいあります。だから、足を傷つけないように、僕たちはウオーターシューズを履くようにしています。足下がしっかりしていないと、楽しく川で過ごせないし、ケガをしたら川に入ることも出来ません。

また、足を水にとられないようにするために、川の流りに逆らわないようななめに歩くといいことを園山先生に教えていただきました。川を横切るときは、着きたい地点の少し上から大きい岩の下を通って、安全に気を付けたいと思いました。また、川の清流をこれからも守るため、ゴミやいらぬものを捨てる行為は絶対にしないように心がけたいです。釣るときには、あまり釣りすぎないように小さい魚を逃がすことも心がけたいです。

去年の7月29日の学年行事では、5年生全員とその家族で河原に行きBBQを楽しみました。僕たちはすぐにゴーグルをつけ川に入りました。流れが少し速い所や深い所には魚がいっぱいて、アユの放流したことを思い出しました。岩場から飛び込んだり、いかだに乗ったりスイカ割りやお肉をたくさん食べて、一日中川で遊びました。その時でもゴミが川に流れていかないように気をつけ、流れてきた物を拾ってごみ袋にいれるようにしました。川で遊ぶ人たちが、ゴミを出さないようにすれば、一斉清掃の時にたくさんでるゴミがへるのではないかと思います。



川の水は海に流れています。上流で出したゴミはやがて海を汚し、たくさんの生き物に影響を与えます。海の水は蒸発し雲になって山に雨を降させます。雨水は山にしみこみ川に流れ出します。山が荒れていると川は少しの雨で洪水し、濁った水が流れ生き物にも影響を及ぼします。ぼく達上流に住んでいる人は、このように山と川と海のつながりも考えて生活していきたいと思います。

私達は、釣り体験や園山先生や高橋さんにお聞きした話から学んだことを発表します。

昭和50年、台風5号で土居川が大洪水となり、小学校の近くにある農協前を濁流が流れました。いまでもその記録を石碑にして目にすることが出来ます。大きな台風は、川をかこっている壁もくずし、土石流となって町を破壊する力を持っていることは、みなさんご存知でしょう。その後、ここ土居川の上流でも、ダムを造ろうという計画があったそうです。でも、ダムができた川は水の量が減り、生き物たちは住処を失い、荒れた川になっていく例があり、町民の反対で取りやめになりました。



2面ばりや3面ばりにすると、今度は魚が川をのぼれなくなり、魚が大きくなり困ったところ次は、近自然工法で改修が進み、その数年後には、多自然工法に再改修されたそうです。そのおかげで、今では、自然に近い環境で、たくさんの魚がゆるやかに川を泳ぎ、生き物たちの住処になっています。私達は、その土居川の支流である狩山川で釣り体験をさせてもらうことになり、改修された様子も見ることが出来ました。

狩山川には、大きなアメゴがたくさんいました。ぼく達はエサ（イクラ）でアメゴ釣りに挑戦しました。初めはなかなか釣れないなと思いながら釣っていたけれど、予想以上に待つ時間が長くて、釣りは難しいなと思いました。アメゴは岩場の陰や隅のほうに隠れてしまいました。そこで、みんなで網の方へ魚を追い込み取ろうということになりました。それでも少ししか取れなかったのが、魚を取るの本当に大変なんだなと思いました。

最後は用意しておいてくれた焼いたアメゴに醤油をつけていただきました。がんばって釣った後はとてもおいしくて、いくらでも食べられそうでした。ぼくはアメゴ釣りが楽しかったので、また行きたいと思いました。休みの日に、そこへお父さんと一緒に釣りにいった友達の話では、何匹も釣れたそうです。

釣り方にはたくさん方法があることも知りました。アユなら友釣り、エサ釣り、玉じゃくりなどあります。ウナギならつけばりや箱漁など魚の習性を生かした釣り方です。このように釣りが楽しめるのも、土居川が豊かな証拠です。ぼく達もアメゴ釣りに挑戦しましたが、釣るには苦戦し釣れませんでした。でも、川を見るとたくさんの魚が泳いでいるところを見ることが出来ます。

その魚はエサになる虫や藻を食べて成長します。ここで釣れたアユがおいしい理由は、川がきれいで、水生昆虫がたくさんいるおかげだからだと思います。

最後に、英語でのスピーチを聴いてください。

The Doi-gawa is a very beautiful river. It is great. I love it.

(土居川はとても美しい川です。土居川はすばらしいんです。私は土居川が大好きです。)

In spring, you can see cherry blossoms on the river.

(春には、土居川の岸辺で、桜を見ることができます。)

You can see Kagura dancing in late march.

(3月の下旬には、神楽を見ることができます。)

In summer, you can swim in the river.

(夏には、土居川で泳ぐことができます。)

There is a big rock at Akaise.

(これはアカイセという大きな岩です。)

You can jump into water from the rock.

(この岩から、飛び込みもできます。)

You can enjoy BBQs at the Miyazaki Camping Site.

(宮崎キャンプ場ではBBQができます。)

In autumn, you can see red and yellow leaves.

(秋には、紅葉が見られます。)

In winter, Shinsui Park is light up beautifully.

(冬には、親水公園がライトアップされきれいです。)

Almost all year round, you can enjoy fishing on the river.

(ほとんど1年中、釣りを楽しむことができます。)

The people here are very kind. The Food is great as well.

(ここの人々はみんな親切で、おいしい食べ物もあります。)

Please come and hang out around the Doi-gawa.

(ぜひ、遊びに来てください。)

Thank you for listening.

(ご清聴、ありがとうございました。)

「今年度取り組んだ内容について」

仁淀川清流保全推進協議会 事務局

仁淀川清流保全推進協議会が今年度取り組んだ「RAC川の安全教室in仁淀川2017」「仁淀川一斉清掃」の概要について報告いたしました。

また、出水後の河口のゴミや波川公園に捨てられたゴミが問題になっていることについて、写真で紹介し、第2部のワークショップへつなげました。



第2部のワークショップでは、「こどもたちを川へ呼び戻す」「美しい景観を守る」の2つのテーマについてそれぞれ話し合いました。

こどもたちを川へ呼び戻す

ブース 1

こどもたちやその保護者を対象 とした川の安全対策の進め方

水流の強さ等の危険情報の看板を人目につきやすいところに掲示する

川にふれ合う機会の増加

- ・川で遊ぶ道具とかを借りられると手ぶらで行ける
- ・遊び方を教えてくれると行きやすさが向上するのでは

こどもの頃川ガキだった方々が 楽しんでいた川遊びの伝え方

- ・川遊びの教室であったり、習い事のように継続的に学べる体験の機会を作る
- ・地域の方に講師になってもらって、その方の経験や知識を教えてもらう
- ・子どもが安全に川遊びを行うようになり、その子どもから親が習えることができるプログラムを組む

ブース 2

こどもを川へ呼び戻すには

- ・親世代が川で遊んでいないので、遊び方やどういうところが危険かわからないのが原因では
- ・親が忙しいとか、お兄さんやお姉さんが川に行かなくなったので、下の子どもたちも行かなくなったのでは
- ・四万十川に比べて仁淀川は子どもが川にふれられる機会が少なくなっている
- ・学校と連携し川を知る体験の機会をつくるとともに、学校の先生向けの安全講習会をする必要があるのでは

仁淀川へ水遊びに来た人の 事故を減らす工夫

- ・周りが指導し過ぎて、こどもから遊びのおもしろさとかを奪っているのでは
- ・安全対策をしたうえで、危ない体験をさせる必要があるのではないか
- ・プールでの水泳の授業ではゴーグルを着けているが、ゴーグル無しで川で泳いでみる
- ・川遊びのルール等を作る
- ・泳げない場所を知らせるようなパンフレットを作る

美しい景観を守る

ブース
3

清掃活動に参加してもらうには

- 気軽に参加してもらう環境づくり
 - ・ 時間を短くしてやる
 - ・ 川のアクティビティとセットする
 - ・ プレゼントがもらえるポイント制にするなど、気分の盛り上がる楽しい活動にする
 - ・ いろいろな人、団体とコラボする
 - ・ ゴミを拾うことをスポーツとして捉えて取り組んでもらう
- 学びから参加意欲を高める
 - 学校活動の一環で年に1,2回親子で参加してもらう
 - 清掃活動後、簡単な勉強会をしてゴミの行方とか処理にかかる費用などについて学んでもらう

ゴミを川に捨てないようにする
アイデア

- ・ 上流、中流、下流で意識の差があるのでは
- ・ 捨てるつもりは無いけど、庭先に置いておいたら風に飛ばされることもあるのでは
- ・ 場所ごとのゴミを捨てるケースを分析するところから始めてみては
- ・ 捨てる人からお金をとって、人件費に充てては
- ・ 監視の目があると捨てにくいので、監視カメラを設置しては
- ・ ゴミを捨てることによって最終処分場の費用がかさんだり、最終的に自分たちの負担になることを知ってもらう

ブース
4

仁淀ブルーを守りたくなるアイデア

- ・ 「自分らあがができること」としては、今まででたアイデアの実現では
- ・ 今まで出たアイデアの「看板をつくる」を高知ならではの人材を活用してやってみる
- ・ 漫画家やミュージシャンにお願いして看板や歌を作ってもらおう
- ・ 仁淀ブルーのきれいなイメージを心にしみ込ませるために、音楽や歌を流す
- ・ 監視カメラを設置して、どうしてそこにゴミを捨てるのか、どのくらいゴミが捨てられているのかなどの状況を把握しては



当日の様子

